

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年10月1日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870102654		
法人名	株式会社 トゥルーケア		
事業所名	グループホーム ばなな	ユニット名	1丁目
所在地	〒311-4153 茨城県水戸市河和田町4433-40		
自己評価作成日	平成22年4月9日	評価結果 市町村受理日	平成22年10月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成22年6月9日	評価確定日	平成22年9月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>入居者一人一人が安心して生活を過ごせるよう配慮させて頂いております。 また、ばななでは3つの理念として、一人一人の尊厳を最大限大切にすること、身体的、精神的拘束が無い様に努力していく事、地域との関わりを大切にし、日々交流を深められる様に努力していくこと、の3点を挙げています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>利用者の個性を大切にしたサービスの提供や心身の拘束をしないケア、地域との連携を掲げた理念を作成し、各ユニット毎の玄関に掲示している。 利用者が大切にしてきた親類や従兄弟、友人達の訪問が頻繁にあり、また、職員は利用者が馴染みの理髪店の利用や家族等、友人へ手紙や習字を送る等の支援をしており、そのことが利用者や家族等の喜びとなっている。 月2回の往診や訪問看護ステーションとの連携のほか、家族等の希望による職員付き添いの支援やかかりつけ医の受診など利用者や家族等の希望を大切にし、適切な医療を受けられるよう支援している。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を分かりやすい文面に変更し、事業所職員で共有理解し、実践している。	「一人ひとりの個性を大切にしたサービスの提供、心身の拘束を行わない、地域とのかかわりを大切に」を旨とした理念を全職員で作成するとともに、各ユニット毎の玄関に掲示している。 職員は理念を共有し実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方々との関わりは大切にしている。今後は近所の方々が必要所に遊びに来られ、利用者との関わり合いができる様努めて行きたい。	自治会に加入し地域のリサイクル活動や地域の夏祭りに参加したり中学生の職場体験を受け入れているほか、琴演奏や舞踊、折り紙のボランティアや大学生の傾聴ボランティアが来訪したり、近隣のコンビニエンスストアからケーキのプレゼントがある。 近隣のコンビニエンスストアが唯一利用者が買物を楽しめる場所となっているが、外出できない重度化の利用者のため、事業所内でコンビニエンスストアのおやつ等が販売できるように管理者は店主と話し合いをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方と接する際には、事業所の事や、認知症についてお話している。最近では、認知症の方との接する時には、近隣の方もそれを理解して接してくれるようになってきたと感じる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の駐車場や、隣接道路についての危険について話あったが、この度やっと改善に向けて動くことができた。近隣の方のご協力によるものである。また、地域の方の意見を大切に、その都度検討させて頂いている。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、民生委員、区長、職員等で2ヶ月に1回開催している。 会議で出た意見等をサービスの質の向上に活かすとともに会議録を作成している。 職員や家族等に会議内容を報告するとともに、家族等に運営推進会議の年間予定表を配布している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	勉強をさせて頂くという姿勢で、日常的に連絡を取らせて頂いている。	市担当者が運営推進会議に出席しているほか、福祉全般の情報提供を受けたり、管理者は事業所の課題や生活保護に関して相談するなど、協力関係を築いている。 市の介護相談員を受け入れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所では身体拘束については行わない方向で貫いてきている。	理念や契約書に身体拘束を行わないことを明記し、利用者や家族等に説明している。 事業所の玄関前の道路は交通量が多いが、職員は言葉かけや見守りを徹底し玄関にセンサーを設置するなど、安全や安心を重視した支援を心がけ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 車椅子利用時や自動車乗車中にずり落ちてしまう場合でも身体拘束にあたる安全ベルトなどは使用せず、通院には職員2人体制で対応している。 安全ベルト等の利用については同意書を作成している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	少しでも不適切な対応を見つけた時には、虐待などに繋がる前に改善、職員指導を行なっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	契約時及び、その時その時に家族へ説明し、共に考えながら支援する体制をとっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文面はもちろんの事、口頭で共に説明を行い、わかりやすく説明をする努力をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の声は大切にしており、苦情などについても感謝の言葉を忘れず、改善に向けてすぐに運営に反映させるよう努めている。	面会や電話連絡時、家族会、運営推進会議等で家族等の要望を聴くほか、利用者からは日々の生活の中で話し合い、出た意見等を運営に反映させている。 玄関に意見箱を設置するとともに、重要事項説明書に苦情相談受付窓口を明記し契約時に説明している。 家族等に広報誌や運営推進会議内容を送付するとともに玄関に掲示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本社の人間が頻繁に事業所に立ち寄り、職員一人一人の意見や不満を聴く体制を取っている。	管理者は日々の記録や毎日のミーティングや全体会議、フロア会議、カンファレンスで職員の意見や要望を聞き、出た意見等を運営に反映させるよう努めている。 管理者は職員からの意見を受け就業環境の整備や研修の必要性を認識しているが、人事異動等により時間が取れず改善するまでには至っていない。	管理者は職員の率直な意見を更に汲みあげるため、無記名のアンケートを実施することを期待する。 職員が更に意欲を持てるよう、経験や習熟度に応じた段階的な研修やマニュアルにそった研修を実施するとともに、職員体制や勤務体制等就業環境の整備を期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別個別の雇用体制を実施しており、各自の能力に応じ課題や目標を投げかけている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者を対象として勉強会や、新入社員向けの研修等が行われました。また、本社のほうから介護支援専門員が来られているので、業務の改善についての相談や、考える機会が作られています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	協議会ができた事もあり、以前よりも交流が取りやすい環境になったように感じます。研修などで、事業所の名前を見て話かけるなど、良い関係が芽生えてきているように感じている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	時間をかけ、本人の不安を聞く努力をしている。心配な面については何度でも相談にのり、安心してサービス利用を行なえる様にこちらからも提案を繰り返し行なわせて頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業所についてあまり知らないケースが多かったり、気を遣ってしまわれているケースも多いが、遠慮しなくていい様に、やわらかく話し合いの場を作る努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人との話し合いはもちろんこと、関係事業所から情報を頂きながら、初期にどの様に卒な支援が必要か検討している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	他利用者との関わりの橋渡しはもちろんのこと、他利用者の家族との関わりが持てるようチャレンジしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡を密にとり、報告や相談を行なっている。時には本当に小さな提案もあるが、家族と利用者との関わりが切れないよう努めている。定期的に家族の面会もあり、日常の報告や、相談を行なっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方々との関わりは自由に行なってもらっており、チャンスがある時にはこちらからお誘いさせて頂くようにしている。	職員は利用者が馴染みの人々と交流ができるよう地域の理美容店の利用を支援したり、手紙や習字を家族等に郵送しているほか、家族等との外泊や外食、親類や友人などの来訪を支援し関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性も大きな壁になることもあるが、孤立する人がいない様配慮している。時には他の階の利用者との関わりの機会をつくるなど、その都度職員同士で検討し、試している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事例は少ないかもしれないが、良好な関係が作れる様に、連絡をする際には世間話も含め思い出話などを取り入れる様にしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	今までの生活をできる限り延長してもらうことが、当事業所の方針である。その為、家族にはお部屋の環境作りに協力頂ける様をお願いしている。	職員は利用者と日々の係わりの中で、表情や言葉から一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。意向の把握が困難な場合は、家族等の面会時に意見等を聴き、職員間で話し合い利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に必ず本人と家族に確認している。また、生活歴から得意であったことなどについては機会を作るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別個別で記録を取っており、変化があった時には情報を共有し、観察の強化に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員同士はもちろんであるが、本人や家族に話をする機会がある時に、相談や意見をもらえるよう努めている。	介護計画は利用者や家族等、医師、看護師など関係者で話し合うとともに、利用者や家族等の要望を反映させ作成しているほか、設定期間毎に見直している。 介護計画をカンファレンスや毎日のミーティング、フロア会議等で検討するとともに、心身の状態に変化が生じた場合には現状に即した見直しをしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の見直しでは、担当している職員達の声が大きい部分を占めているが、個別でのケアの実績や結果も重要な情報として活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度ニーズに答えられるよう、職員や家族、本人との話し合いを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだまだ活用できる資源は数多く存在していると考えている。資源を活用し、楽しみがより増やせるよう努力していきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の協力を得ながら、支援している。家族だけで対応が難しい時には、送迎のお手伝いや、代理で受診対応も行なっております。	かかりつけ医は家族等が付き添い受診しているが、家族等の都合が悪い場合や診療科目により職員が付き添い適切な医療が受けられるよう支援している。 毎月2回の往診を支援するとともに、訪問看護ステーションと提携している。 受診結果は家族等に報告するとともに、記録し職員間で共有を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制で訪問看護と連携している。医療面については、わからない事があるたび、訪問看護事業所に相談している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	長年の関わりから、情報交換や相談は容易に行なえている。定期的に担当職員が挨拶に回っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けて担当医師や家族との話し合い行なっている。担当が家族との相談をすることが多いので、今後は家族や本人を交えて方向性を決めていける体制作りを行いたい。	重度化した場合に向けて事業所の対応方針を契約時に利用者や家族等に説明し同意を得ている。 医師や訪問看護ステーションと連携を図り事業所でできること、できないことを説明しているが、職員の研修をするまでに至っていない。	重度化や終末期に向けて利用者や家族等の希望にそった支援ができるよう、マニュアルにそって職員の研修を行うことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行なえていない為、年間のスケジュールを作成し、繰り返し勉強して実践力を身につけたい。体調などの急変時については協力病院と緊急受入体制を設けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は作ってあるが、訓練としては実施できていない為、運営推進会議などで企画して実行していきたい。	消防署の協力を得て避難訓練や通報訓練を実施しているが、夜間を想定した避難訓練は実施しておらず、地域の消防団や近隣住民の参加を得るまでには至っていない。 災害に備えて食糧品や飲料水を事業所本部に備蓄している。	地域行事や事業所行事、運営推進会議、地区の集まり等を利用し、災害時における事業所の役割などについて話し合うことを期待する。 事業所は3階建てであり、災害時はエレベーターの利用ができなくなるため、消防団やボランティアなど多くの地域住民の協力を得た避難訓練や、夜間を想定した避難訓練を実施することを提案する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けには注意を払っており、職員間でも気をつけている。個人への尊重は重視しており、会議の際などにも個人の尊厳を大切にされた対応方法を考える形をとっている。	職員はプライバシーを損ねない挨拶や言葉かけに努めるとともに、トイレや居室の入室は意思の確認をするなど、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを大切にされた支援をしている。 個人情報の使用は家族等の同意を得るなど、取り扱いや管理に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の生活スタイルを大切にしている。時には本人の希望を早急に対応する事が困難なケースもあるが、ケアプランに盛り込み達成できるよう試みている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り配慮し、自由に生活して頂いているが、その日の状況によっては支援が適切に行えていないこともあると感じられる。すべてを達成することは困難であるが、一つでも多く希望を叶えていきたいと考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をされる方も自由に行っている。支援が必要な方については職員が支援させて頂いている。最近強化しているのが、衣類や髪型だけでなく、杖や車椅子などの自助具などの掃除などにも気をつけている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	共に食事をしながら、支援も行って いる。個々にあった調理方法や、お かずを提供することもある。間食に 食べたいものなど、本人の希望を聞 いたり、共に買い物に行って1つの 楽しみとして頂けるよう支援してい ます。	食材は業者委託でユニット毎に調 理している。 嫌いなメニューは代替品で対応し たり、食べたい食品の購入や外食な ど、利用者の希望にそった支援をし ている。 利用者と職員と一緒に食事をし、 和やかな雰囲気の中で、「美味し い」との感謝の言葉が聞こえてい る。 利用者の好みや能力を活かし、食 事作りや食器拭き、下膳などを職員 と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分 量が一日を通じて確保できるよ う、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	専門業者に依頼し、献立通りに調理 している。水分摂取については、個 人の飲み物の希望に沿って対応し、 摂取記録もとっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じない よう、毎食後、一人ひとりの口腔 状態や本人の力に応じた口腔ケア をしている	歯磨き、ガーゼ対応での口腔ケア、 口腔ケア用の薬品を個人の状況に よって支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減 らし、一人ひとりの力や排泄のパ ターン、習慣を活かして、トイレ での排泄や排泄の自立に向けた支 援を行っている	本人に合った適切な排泄面での支援 を随時話合っている。必要に応じて 職員が支援することにより、安心し て排泄を行なえる方も多くいらっ しゃいます。	職員は利用者一人ひとりの排泄パ ターンを把握したり、利用者の様子 からサインを察知し、言葉かけや身 体機能に応じたトイレ介助をしてい る。 紙パンツからパットや失禁パンツ 等に変更するなど、おむつを使用し ない生活が継続できるよう支援して いる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や運動、水分摂取に気を配っている。お薬が必要な方も多いが、主治医に相談しながら、お薬に頼らない便秘の予防を目指している。1丁目では、ヨーグルトを定期的に摂取して頂いている方もいらっしゃいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴を頑なに拒む方には、対応方法について話し合い、本人が入浴しやすい環境を作れるよう努力しています。	利用者の希望にそった時間帯に入浴できるよう支援している。 入浴を拒む利用者にはタイミングを見計らって声をかけたり清拭等を実施し、一人ひとりに応じた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	椅子に腰掛けたまま傾眠される方も多いが、その都度お部屋で横になれる様支援をしている。就寝前に不安になられる方もいらっしゃいますが、職員のほうでゆっくりと話を傾聴して不安解消を試みています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬は管理させて頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴を大切にした支援に努めている。嗜好品などについても以前の生活や現在の希望に添えるよう努力している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関先までしか行かれないことが多くなっていると感じられる。職員だけの支援には限界がある為、家族や知人、地域の方々に継続して協力を求める努力をしていきたい。日常的にも、けして多いとは言えないが、個別に対応出来るよう努めている。	利用者は家族等の協力を得て外食や外泊に出かけている。 職員は利用者の気分転換やストレス解消、五感刺激を得る機会として、希望や必要に応じての買い物やドライブ、散歩、外食などを支援し利用者の楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の意向に左右されることが多いが、個人でお金を管理して頂くことは本人にとって非常に大切であることから、今後はより本人のお金の管理等の機会を増やしたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙では家族も喜ばれ、返事がきた入居者も非常に喜ばれていた。電話についてはここ最近では少なくなったと感じている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の状況に合わせて環境を変えるなど努力している。温度や季節感には配慮しているが、照明などの光については今後検討する必要がある。	玄関や廊下の窓からはキウイや柿、草花が眺められ季節の移り変わりが感じられる。 食堂には職員が自宅で育てた花や利用者の生活の様子を撮影した写真、手作りの作品を飾るほか、ソファやテレビ、ラジオカセット、机などを配置し、利用者が居心地良く過ごせるよう配慮している。 利用者の洗濯たたみや休憩に利用できるよう、居間に畳のスペースを設けるとともに、雛祭り等の行事にも使用している。 浴室やトイレは清潔に保たれている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員の方で支援を行っている。気のあった入居者同士の生活は非常に大切であり、効果が大きいと感じている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に必ず家族や本人に在宅での生活環境に近づけられる様に協力を依頼している。グループホームでの生活の中で新しく作られる環境も多いようだ。	契約時に利用者や家族等に使い慣れた物品を持込んでもらうよう説明している。 居室には時計や日用品、仏壇、整理タンス、机、テレビ、自宅で使用していた布団など、使い慣れた馴染みの物品が持ち込まれ、職員は利用者の生活歴などを考慮し安心して暮らせるよう支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人個人の能力に対しての自立支援を心がけている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム ばなな

作成日 平成22年9月22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	災害時の避難体制において、地域住民の協力を得た訓練及び夜間を想定した訓練の実施。地域住民の理解を得ることが必要である。	地域住民の協力を得た訓練の実施。	地域住民との話し合いを行っていき、事業所で可能な事、地域住民の避難時の役割を明確化し、災害時のパニックや2次災害についても考えていく。	三か月
2	12	重度化に向けての体制作りがしっかり構築されていない。	家族等の希望にそった支援が行える体制作りができる。	マニュアルの見直し及び、介護・医療を含めた勉強会の実施をする。	六か月
3	7	一人一人の職員の意見を汲みあげる体制がより必要である。	一人一人の職員の意見を汲みあげる事のできる環境ができる。	定期的に個別面談を行うと共に、無記名でのアンケートを実施していく。	三か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。